



JR九州労組

2024年

3月6日

No. 1111

九州旅客鉄道労働組合

業務部

発行責任者 吉田祥司

編集責任者 花田祐希

業務速報

JR九州高速船(株)

職場諸課題等について考えを確認

2月29日に申第21号で申し入れた「職場諸課題等の要求」に対し、3月4日に協議を行い安全運航や要員体制等について会社の考えを質した。

【主なやり取り（抜粋）】

組合) 安全運航についての会社の考えを示されたい。

会社) 安全最優先の中で、安全・安定運航を行っている。定例訓練の他にも関係機関等と連携した訓練等も実施している。

組合) 要員需給に見合った要員体制を確立されたい。

会社) 機関部は1名採用を予定しており十分な要員の確保ができると考える。客室乗務員は退職者の補充を検討中である。フロント部門は現在1名欠員の状況である。運航ダイヤ上、釜山ベースの際は、連続勤務となる場合があるため配慮していきたい。

組合) 教育期間中の社員の要員としての考え方を明らかにされたい。

会社) 最近では韓国のワーキングホリデー制度の変更等もあり、客室乗務員は入れ替わりが多いため、人材の定着が課題である。退職者の補充も期間的に余裕がないため、教育の方法については勉強したい。

組合) 早朝出勤や遅い時間の退勤におけるタクシー利用を許可されたい。

会社) 公共交通機関で通勤している者が早朝や土日ダイヤ等で交通機関の利用ができない場合は内容によっては許可しており、退勤においても同様に認めている。ただし、交通機関が動いている場合は、最寄りのバス停までとなる。

組合) 社員用駐車場を整備されたい。

会社) これ以上の拡大は困難である。社員用駐車場は、普段公共交通機関を利用する社員が

当番等で、公共交通機関を利用できないときのためのものである。

＜船員関係＞

組合) 客室乗務員のシャツ及び靴の支給回数を増やされたい。

会社) 現在は採用時にシャツは3着、1年経過ごとに1着ずつ支給している。靴についても事情によっては取替え等の対応もしており、現行どおりとしたい。

組合) スロープ下のスペースに予備室を設置されたい。

会社) 予備室とするのであれば、スプリンクラー等の必要な設備の整備が必要となる。カーテンで仕切った場合は、空調も効かない。関係法令上の問題はないのか、確認が必要。

組合) パーサーに携帯電話または韓国で使用できるポケットWi-Fiを支給されたい。

会社) POSについては、スターリンクの導入を計画しており、試験の後、問題がなければ次年度早い時期より使用開始としたい。

組合) K I O S K内に備え付けの折りたたみ椅子を設置されたい。

会社) 揺れがひどい場合等で足を一時的に休めたい場合は、アナウンス等を行い後方の座席に座っても問題はないと考える。サービス課にも確認する。

組合) 棚卸し作業を委託化されたい。または棚卸し作業用の要員を配置されたい。

会社) 委託化は困難である。一部の作業は休船日に対応しており、在庫数の管理等ができていれば、必ずしも月末日にしか全ての作業ができないわけではない。

組合) 片道運行時の自社清掃に船員だけでなく陸上からも要員を配置されたい。

会社) 自社清掃により、通常業務が圧迫されるとのことであるが具体的に教えてもらいたい。片道運行時の清掃は業務の範疇であるとの認識であり、これまでも陸上からの助力は行っていない。

＜陸上関係＞

組合) 台風等での船の避難手続きに伴う待機の際、出退勤が困難となる社員については近隣ホテルを手配されたい。

会社) 出退勤が困難な状況の場合は、上長に連絡し指示を仰いでもらいたい。場合によっては、公用車での帰宅も認めている。

課題解決に向けて引き続き取り組んでいく！

以上